

第5回 函館市都市計画マスタープラン市民懇話会 会議録

□日 時 : 令和6年10月29日(火) 18:30~20:30

□場 所 : 函館市役所 8階第2会議室

□出席者 : ■委員(7名)

奥平委員, 三橋委員, 辻委員, 阿知波委員, 仙石委員, 高澤委員, 堀田委員

■事務局

小畑都市計画課長, 上田主査, 関主査, 茶野主査, 溪本技師, 梅村技師, 大柳主事

□傍聴者 : なし

□議 事

○都市計画課 上田主査

本日はお忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。定刻より若干前ではございますけれども、只今から第5回函館市都市計画マスタープラン市民懇話会を開会いたします。

これより進行は奥平座長にお願いいたします。

○奥平座長

まず初めに、出席委員の確認をしたいと思います。欠席者が今回、渡部委員とそれから小森谷委員が連絡で入っております。よって今回は委員7名で懇話会を進めていくこととなります。よろしく申し上げます。

次に今回予定されている議論に入っていく前に、前回第4回懇話会の会議録を確認してまいりたいと思います。委員の皆様のお手元に事務局が作成しました会議録の案が配布されておりますが、事前に見ていただいたかと思いますが、修正点などございませんでしょうか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。修正点はないようですので、案の通り確定したいと思います。以上でよろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。それでは、議事録は修正しないということで進めてまいりたいと思います。

では続きまして、お手元に配付しております次第に沿って順次進めてまいります。前回第4回の市民懇話会では、拠点地域間の移動と公共交通のあり方というテーマに基づきまして委員の皆様にご議論をいただきました。

さて今日の議題ですが、都市機能の配置とまちなか居住の考え方、所謂賑わいのある拠点地域のまちづくりと称して、函館市における都市機能とまちなか居住について皆様にご議論をいただきたく存じます。

では、事務局より資料の説明をお願いいたします。

○都市計画課 上田主査

はい。それでは委員の皆様事前に配付しております資料についてご説明させていただきます。まず表紙でございますけれども、今回のテーマ、都市機能の配置とまちなか居住の考え方、賑わいのある拠点地域のまちづくりでございます。

続きまして目次でございます。2の都市機能の配置ですけれども、今回はまちなか居住のメリット、函館市の都市機能の配置、賑わいのある拠点ということで、函館駅前・大門地区の都市再生整備計画、函館駅前・大門地区の都市構造再編集中支援事業、エリア毎における賑わい拠点、で4番目にまちなかの安全安心な暮らしということで、まちなかの災害リスク、まちなか防災の対応方針、災害時における市民の避難についてご議論いただきたいと思います。

テーマは先ほども申し上げましたけれども、都市機能の配置とまちなか居住の考え方についてでございます。

続きまして本日の議題でございますけれども、拠点となる地域に必要な機能について、まちなか居住、まちなかの賑わいについて、まちなかの防災対策について、ご議論いただきたいと思います。

続きまして4ページ目ですけれども、まちなか居住のメリットということでまちなかには公共施設、商業施設、娯楽施設等が集積し、公共交通ネットワークが拠点間や拠点と居住地を接続しております。人口減少社会において、都市機能の維持、生活利便性施設の確保をするため、まちなかに機能を集積することが望ましいと考えております。人口密度が維持され、都市機能交通等インフラが適切に整備されることで、市民の生活利便性向上、公共交通機関、社会福祉の充実が見込まれます。

続きまして5ページ目です。函館市の都市機能の配置でございますけれども、函館市立地適正化計画では、都市の居住者の共同の福祉や利便に資する医療・福祉・商業などの施設のうち、高次のものを誘導施設として設定しております。各都市機能誘導区域の特性や、充足状況を勘案して配置しております。都市機能誘導区域は中心市街地地区、十字街地区、美原地区、湯川地区の4地区を設定しております。居住誘導区域は一定の人口を維持する区域として設定しております。

続きまして6ページ目です。同じく函館市の都市機能の配置でございますけれども、中心市街地地区には全ての誘導施設が立地しております。中心市街地地区、美原地区、湯川地区については、設定した全ての誘導施設が立地しておりますが、十字街地区におきましては、中・大規模病院、福祉センター等、高等教育施設が現在立地しておりません。

続きまして7ページ目です。函館駅前・大門地区の都市再生整備計画でございます。函館市では棒二森跡地における再開発事業において、新たな拠点施設の整備が準備されておりますことから、これを契機に、都心部ならではの生活利便性と賑わいある魅力的な居住環境を備えたまちなかの実現を目指すため、都市再生整備計画、函館駅前・大門地区を策定しております。

続きまして8ページ、函館駅前・大門地区の都市構造再編集中支援事業でございます。都市再生整備計画の目標を実現させるため、都市構造再編集中支援事業を実施しております。高砂通りの道路整備事業再開発ビル内への地域交流センター整備事業、店舗改修や住宅建築への補助事業、オープンカフェ等社会実験に取り組んでおります。

続きまして、エリアごとにおける賑わい拠点でございます。中心市街地地区には函館駅、五稜郭駅周辺に各々コミュニティ施設が立地し、子供が遊びや学びができる施設、若者の勉強場所や交流施設としての機能を有しております。縁日やイベントも開催され、地域の賑わい創出に資する取り組みが行われております。

続きまして10ページです。美原地区には、亀田交流プラザ、湯川地区にはアリーナが立地しております。亀田交流プラザは、子供から高齢者まで様々な年代が交流できる総合施設となっております。函館アリーナは様々な室内スポーツアクティビティが可能であり、コンベンション機能も有しております。

続きまして11ページです。十字街にある地域交流まちづくりセンターでは、移住サポート、市民・まちづくり活動の支援を行っております。施設としては、市民が活用できる会議室や仕事場として活用できる施設がございます。

次に12ページです。まちなかの災害リスクでございます。最大クラスの災害リスクで日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震が想定されているほか、複数の災害リスクが重複するエリアが存在しております。各種災害ハザードマップ内に災害時において特に配慮や支援が必要となる高齢者、障がいのある方等が利用する施設、要配慮者利用施設が立地しております。多くの倒壊リス

クのある空き家と旧耐震基準により建築された建築物も立地していることから、災害時においては、これらが倒壊し、避難路が閉塞し、避難の際大きな支障となることが懸念されます。

次に13ページです。まちなか防災の対応方針でございます。本市におきましては通常の災害リスクの他、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震といった最大クラスの地震・津波災害リスクが想定されておりますことから、警戒避難体制の整備などを軸とした災害対策とならざるを得ない状況であり、このような状況を踏まえ、防災まちづくりの将来像・取組方針を設定しております。

最後に14ページでございます。災害時における市民の避難、函館市は令和6年1月31日に逃げ地図ワークショップを開催してございまして、避難経路の検討に関するワークショップを実施しました。地震・津波発生時に夏季と冬季の二つのパターンで避難路を検討し、避難の方法、避難にかかる時間、道路の閉塞、要支援者の支援などについて議論しました。

資料の説明は以上でございます。

○奥平座長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明について何かご質問等ございませんか。ありませんか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それではですね、いよいよ議論の方に進んでまいりたいと思います。

今日はですね、なんか所謂専門用語がいっぱい飛び交ってる状態かなとイメージしております。

都市機能という言葉がですね、かなり大きなウェイトを占めているのかなと思うんですけど、都市機能というのはですね、都市として成立するために必要な要件とされる要素、例えば住宅もそうなんですけれども、あとはですね、もっと重要な点で言うと、行政機能それから商業機能、居住機能、この三つが大きなものになるのかなと思います。

そしてあと憩いの環境ということで、公園等が入ってくるというところが都市機能ということになるわけなんですけれども、そういったものがですね、この函館市の場合にはですね、集中してないんですね。どちらかという分散していろんな地域にある。これは函館市の所謂まちが出来上がっていく過程でですね、函館山の周辺からですね、どんどん北に向かってまちが伸びていったという経緯があるものですから、所謂集中型じゃなくて分散型のまちがもう出来上がっている状況になっています。これがまた逆に言うんですけど、真ん中に戻さなきゃならないという部分については重要な部分になってくるのかなと思います。

でですね、あとまちなかという言葉が次に出てくるんですけども、まちなかですね、拠点がいっぱいあるんですけども、拠点もですね、どれを拠点としたらいいのかっていう部分があるんですけど、これ5ページの区分でよろしいですか。

○都市計画課 上田主査

はい。

○奥平座長

5ページの区分で拠点というのが一応考えられるということなんですけど、そうするとですね、ここにあるのは十字街、中心市街地、それから美原、そして湯川ということになります。それぞれの特徴なんですけれども、十字街地区はですね、かつての中心街、かつての中心街で非常に繁栄した場所でもあるんですけども、それこそまちづくりセンターは元デパートですし、というふうにと考えると、あとそういった機能が全部集まっていた地域でもあるんですけども、実際現在はですね、先ほど言った通り北へ北へとまちが動いた関係で、人とまちが一緒に動いてまいまして、ここはですね、割とですね、都市機能がない地域にいまなっているのかなというところではあります。

その北へ北へと動いていく中で、最初に移っていった場所がですね、中心市街地地区の駅前・

大門地区ということになると思うんですけども、ここはですね、函館駅ができると同時にですね、まちが出来上がっていったという場所でもあります。そして商業施設をはじめ、それから行政機能、そして居住機能、そういったものが全て揃っている場所というふうに先ほど説明があったかと思うんですけども、ただ駅前・大門地区についてはですね、一時ですね、商業機能がどんどん衰えた関係で逆に人が住みにくい場所になったということで、居住機能がかなり落ちたという経緯があり人口減もかなり進んでいる場所と、それから高齢化も進んでる場所ということになるかなと思います。

そしてそのまま連担地域として繋がっている本町・五稜郭地区というのがありますが、この本町・五稜郭地区についてはですね、ちょうど函館市の真ん中にある場所なので、ここはですね、現在バランスが全部取れていると。都市機能のバランスが全部とれた状態であるというまちにもなってるんですが、やはりここもですね、所謂モータリゼーション、自動車の普及等に従ってですね、郊外へどんどん移動する、中心市街地、市街地じゃなくて、商業地区がですね、どんどん外へ出ていくというパターンで言うそうですね、一時は産業道路沿い、それから次がですね、インターチェンジ沿いにまちがどんどん移っていくという経緯があり、やっぱり外側に向かう軸ができるというところが特徴でもあります。

そして次がですね、美原地区なんですが、ここはですね、言ってみるとかなり新しい、かなり新しい拠点地区ということになるかと思うんですけど、こちらもですね、行政機能をはじめとして全ての機能が揃っております。ただ商業機能がですね、かなり偏っていた時期がありまして、大型ショッピングセンターがたくさんあったという経緯もあって、飲食店が少ないという経緯がありました。現在はですね、逆に役所が移っていったりですね、する経緯で、中で、飲食店も増えていくという傾向がある場所にもなっているので、あと亀田交流プラザ、亀プラですね、ができたことによってですね、また集客というか集まる、人が集まるという機能もですね、備わってきたのかなというところにもなります。

そして最後、湯川なんですけど、湯川についてはですね、ここは都市機能もあり、全部揃ってるんですけど非常にこぢんまりとした場所ですね、バランスとしてはですね、商業機能がですね、どちらかという飲食が少ない。飲食が少なくってですね、郊外型のショッピングセンターが外側にいま出来ている状況なので、そこを中心にですね、人が集まるという傾向があるということになります。私いま湯川地区に住んでますけれども、スーパーマーケットがたくさんあってですね、どこに行こうか迷うという場所でもあります。あともう一つはですね、アリーナ、アリーナにたくさん人が集まることが多くあります。そして、アリーナの周りにはですね、何かイベントがあるとですね、大渋滞するという場所でもあるんですけども、そういった言ってみると、人が集まるということであると湯川も一つの大きな機能を持っているのかなという特徴があります。

なのでそれぞれがですね、微妙に違う個性を持っているのかなというところでもあるんですけども、こういった地域がバランスよく、なんていうか成長していくってのはですね、なかなか難しい部分があって、そうなるかどうかでこの誘導する必要があるのかかなと思います。

無秩序、所謂スプロールと言われる現象なんですけど、無秩序に虫食い状態でどんどんまちが広がっていくとですね、袋小路がいっぱいできたりですね、行ってみたらもう行き止まりだらけみたいなのができるよとこれまた住みにくい。

また先ほど防災の話もありましたが、袋小路がたくさんあるとですね、火災に弱いというものがありますので、そういったものをやっぱり排除していかなきゃならないということから考えると、やっぱりバランスよくやっていく必要があるのかなと。で、スプロールというのはですね、

新しい住宅街に起きる可能性が高いので、そうするといまここには書いてないんですけど、さらに北側にある石川地区などがですね、逆にスプロールの危険性がいまあるのかなと思ってます。

実は美原地区は元々スプロールがあった地域なので、ここも袋小路がたくさんある場所でもあります。私もなるべく車で行くとですね、お願いだから着いてねっていう感じで行って見たら、やっぱりなかったみたいなのがよくありますので、そういったまちでもあります。

こういったところをですね、一応理解した上でですね、基本的には、この中で産業道路の内側にあるのは、内側にあるのは、美原地区を除く地区ということになります。美原地区は一部外側にはみ出しているということになるんですけども、問題はその拠点にどう人を集めていくのか、住ませるのかということと言うと、先ほど私がちらっと言いましたけれども、逆に言うとインターチェンジの辺りに今度新しいまちができちゃうと今度は外側に広がってしまうということになりますので、これもだからなんとなく誘導して内側にしていく必要があるのかなと思いますが、かつてみたいに大店法のような縛りがもうないので、出店規制とかはできないという経緯があるので、そうするとなかなかこちに持ってくるのは難しい部分があるんですけども、それをどうやっていくのかということですね、今日議論していけばいいのかなと。難しいですけどね。皆さんの忌憚のないご意見を頂戴できればなというふうに思っております。

で、やっぱり既存の施設をうまく活用しながら、どうコンパクトにまとめていくのかというのが一つの課題なのかなと思いますので、各地域でいろいろ問題もあるんですけども、その問題を少しずつ克服しながら何とかコンパクトにまとめていければいいのかなと思ってますし、そういう原案が作ればいいのかと思っておりますので、皆様の忌憚のないご意見を頂戴できればなと思っております。はい。ということですね、拠点となる地域に次進みます。

拠点となる地域に必要な機能なんですけれども、どんな機能が必要かっていうことなんですけど、皆さんどうお考えですか。ちょっと順番にお聞きしてよろしいでしょうか。

では仙石さんからお願いします。

○仙石委員

都市として必要な機能っていうことですよ。それぞれの地区。

ここに解説書いていただいているんですけども、大体この中心市街地地区にはほぼほぼ立地しているのかなって思うんですが、ただ十字街の方には大規模病院がかつてはあったけれども今はないとか、あと病院って結構ポイントになるのかなって思いますね。

なので病院もそうですけど、あとちょっと聞きたいんですけど、湯川の方にアリーナと市民会館があるじゃないですか。そっちに作った理由みたいなものって逆に何かあるのかなって今日聞いた上で、何か先生ご存知ですか。

○奥平座長

はい。あそこはですね、元ですね、遊園地の跡なんです。戦前の遊園地の跡で、それをですね、市が肩代わりして買収したという経緯があつてですね。言ってみれば広大な空き地がずっと昭和40年代、30年代まであったということで、じゃあここに機能を集約しようということで、所謂函館市の公民館、坂の途中にあるやつなんですけど、あれが狭くてですね、もう使い様にならない。

実は一つ経緯があつてですね、ニチロビルにあったニチロのホール、あのホールも使えなくなるということで、結果的にはどっかに移さなきゃならないという経緯があつたもんですから、そのときに大きな土地があつて、駐車場も取れそうなところということで、現在のアリーナの位置が市民会館になったという経緯があります。

そのあとで昭和50年代に今度は市民体育館もできて、あそこが言ってみればそういうスポーツ

それから文化施設ということでできたという経緯があります。

○仙石委員

ありがとうございます。たまたまその場所を市が所有してる土地と、あとその機能を持っていたところをどっかに移さなきゃいけないっていうところで湯川のところっていうタイミングっていうことだったんですね。はい。ありがとうございます。

なんかそういう流れとかを知れるとなんか今後もそういう流れも見えてくるかなとか。

○奥平座長

それは聞いていただければ。

○仙石委員

うん。なんかこういうところで勉強していきたいと思います。先生からお知恵を聞いてですね。なので、そういう遊技場とかもちろん必要なんですけど、一番重要なのは病院かなって思いますね。あとは買い物する機能、湯川たくさんあるって先生おっしゃってましたけど。

一方で、十字街も買い物する場所はあるんですけど、偏っちゃっててっていうところもあって、あれで充足してるのかなってのは正直思うところがあるので、とはいえなんか最近まちづくりセンターにいと、病院に通うご年配がやはり住んでて困って、わざわざね、函病の方まで行ってとかって聞くので、その辺の今後中長期的に考えていくと、年齢を、僕もそろそろ棺桶に片足突っ込む歳になっていくので、病院ね、体悪くなって、通院できる場所が考えていかなきゃいけないのかなっていうふうに。そういう点では誘導していくってのは多分正しいのかもしれないですねっていう。都市機能として重要になっていっはやはり病院かなっていうふうに思いましたっていうところですよ。すいません、グダグダ喋ってしまっ。

○奥平座長

いや、今日はグダグダになると思いますので、あのどうぞグダグダで話していただいて。

はい、次辻委員おねがいします。

○辻委員

はい。質問としては、誘導施設に何がいてることですよ。

何がいてと言われるとちょっと難しいんですけど、結構やっぱり函館市自体がいろんなところにバラバラに分かれてるっていうのがやっぱりあると、やっぱり人の流れとか集まりが少なくなるのかなっていうのはいろんな他の都市に比べると、例えば市役所とかそういうものがあって、その周りになんか住宅街ができてるっていうのが多いと思うんですけど、そこら辺をやっぱりまとめていくことがいいのかなと。

亀田交流プラザとかも割と結構人が入ってたりとか、会議室とかも結構2ヶ月ぐらい前から予約しないと入れないっていうのもありますし、行くとやっぱりなんかこう人がいるなっていう感覚はあるので、それに比べると例えばサンリフレさんとか考えるとあんまり人がいないなっていう感じはやっぱりあるので、市のもんとか、その公共のもんとか、その公共のもんとかなんか民間のもんがちょっと混ざるぐらいのような施設っていうのをどこかにやっぱりまとめていくとか、いまでいけばやっぱり十字街、中心市街地地区、湯川、美原って四つあって、函館市さんの思惑でいう産業道路の中だっっていうんであれば、多分五稜郭の辺りとかが一番適してるんじゃないかなとは思いますが、あとは多分先ほど言われてたアリーナのときに市が持ってたとか、持つことができたような土地っていうのが今後例えば可能性があるような土地がどういふふうに出てくるのか、出てくるのかとかいう可能性がある土地があるのかっていうところをやっぱりまとめていくとなると、五稜郭の辺りの美術館とか、そこら辺の土地をうまく活用できるといいんじゃないかなとは思っています。

なので、自分の意見とすると、民と官のものをある程度中心に集めていくっていうのが、自然とその人が集まってくる原因となってくるんじゃないかなと思います。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。

ちなみにですね、文化施設で言うそうですね、博物館・美術館関係がですね、やたら分散しちゃったっていうのも、やっぱりまちの拡大と一緒に分散したという経緯があります。ですから逆に言うそうですね、博物館どこにあるのって聞かれることがやっぱあります。

博物館が函館公園の更に奥の方にあつて、全然わからないようなところにあるっていうこと自体がですね、やっぱりすごいまちだなという感じがして。昔、博物館っていうと私達の小さい頃は逆に五稜郭の分館の方が普通だったんですね。知ってます。五稜郭の分館があったんです。いまのちょうどあれですね、奉行所に向かい側にあつたんですね。大砲のある辺り。大砲のある辺りにあそこに分館があつて、あそこが逆に博物館だというイメージが強くて、小学校の頃は逆に函館公園の方は倉庫だと思ってましたんで。

それぐらいやっぱりもう当時から、昭和40年代、50年代ぐらいですけど、もう既に言ってみれば、西部地区と、東部、東部じゃない、中央地区ですね、かなり差ができていたっていうことがもうわかるのかなと思います。結果的に、博物館壊したあとはですね、どこに行ったらいいんだって話になるので、聞かれるということで、いま別な部署、別なところで議論が、博物館どうするっていう統合みたいな話もちよっと発してますけれども、それもなんか今回はそのままみたいな話になったみたいですけども。そういう経緯もあるということちよっと申し添えます。

では次は、三橋さんお願いしていいですか。

○三橋委員

都市機能の大事なものっていうことなんですけど、私も仙石さんと同じで一番大事なのはやっぱり病院なのかなと思ってます。

これは自分の経験値としても、経験値というかですね、ちょっとマンションの計画を例えばやって、計画っていうのか携わったときに、お客さんの話だとかいろいろと聞いていくんですね。そうしたときに、なんでこの五稜郭のこの五稜郭のマンションだったんですが、選ぶんですかっていったときには、やっぱり最初に出てくるのは結構高齢者という方も多かったんですけども、まず病院が近いと。それが何より安心なんだということ言う方が意外と多かったんですね。

ある方はわざわざいま住んでるところが郊外なんですけど、そこを売っ払ってでもこっちに移ったほうが、これからのまだ若い、私にすればまだ若い60代の人なんですけど、こっちにこれから考えるといいんだよねという考えがですね、結構な、男性ももしくは女性も含めてですけど、多いですね。

これはすごく病院って大事だよなと思いつつながら、ただ今やっぱり、いままちの函館の中心としてはやっぱり病院としてやっぱり本町というのか、あそこに集中してて、ちょっと港の方に函病だとかあるっていう形ですけど、もう少し考え方としては、逆に言うと分散してあつたほうがいいんじゃないのかなと。

というのは、これは何か災害だとか、状態があつたときにどうしてもどっかに集中して地震なり何か起きるといったことがありますよね。そうしたときに、例えば本町なりに集中した状態で万が一そこに災害があつた場合に、集中して災害があつたときに、函館市の病院の機能がなくなってしまうっていうのも怖いので、私としてはもちろんコンパクトシティっていう言葉もあるし、集中してあつたほうがいいという考え方もありますけど、病院とか先ほど言った公共施設

は、ある意味分散しててもいいのかなと。の方が何か災害だとか、そういう危険なときに、あったときに、役に立つんじゃないのかな。一極集中してしまうと、使い物にならないところばかりになってしまって機能がなくなってしまうというのは心配かなと思います。以上です。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。

ちなみに病院で言うとですね、高橋病院が今月から千代台に移転しちゃいまして、さらに西部地区の病院がなくなった。大きな病院がなくなって、いよいよ大きな病院は江口眼科だけですね。かなり偏ったいま状況になっているのかなと。これで江口眼科が移ったらもう終わりっていう感じかなというところですよ。

あともう一つ病院だけじゃないんですけども、もう一つ大きなもので移転する予定なのが、NHK函館放送局も美原に移転しますので、そうすると今度はこっちの駅前地区のほうもちょっと抜けるのかなというところになります。

そうすると抜けたところの土地をうまく利用しながら、そこを何かに活用するみたいなことができればいいのかな。特にあの駅前に近いNHKの跡なんていうのは考える場所なのかなという感じはしてますけれども。はい、付け足しでした。

では続きまして、阿知波さんお願いします。

○阿知波委員

僕も皆さんと同じ意見で、病院が一番大事かなと。

あと食料とか買い物ができる、先ほどお話した亀田交流プラザすごい賑わいっていうか人が集まってるっていうところ、そういうのがあるといいのかなっていうプラス、ちょっと自分のいま置かれてるっていうか、状況で言うと子供の集まる場所、キラリスにあるキッズプラザとか、こないだ僕公園大さだみたいなことも話したんですけども、晴れてるときは公園に子供を連れてくんですけども、雨降ったときじゃあどこ連れてくんだっていうときの、雨天のときとかって結構、あと保育園とか幼稚園が休みで、そうするとそういうキッズプラザなんかがあるとすごい助かったりとかすると、そういう子育て世代の人とかが、なんか安心して集まれるようなところもあったりするとプラスいいのかなという感想です。

あと先生にちょっと、いくつかの、脱線するかもしれないけども、質問というか、もしあれでしたら、この話とちょっとまた脱線しちゃうかもしれないんですけども、都市機能とは違うのかもしれないんですけども、現状として石川町のほうになんか若い世代とか、新興住宅街みたいなのがどんどんできてきて、そうするとこのいまの考え方と、どういうふうに考えていけばいいのかなっていうのがもしご見解があればちょっと質問したいなと思います。

○奥平座長

それ本当は都市建の専門なんですけども、所謂土地利用の指定の部分になるのかな。

だから市街地のその指定の部分で言うと、市街地の指定はこれ以上拡大しないというのは前に決まったのかなと思いますので、石川もですね、現在のところより外側にはもう行かないという形になっているので、ですからなんぼ土地があってもですね、やっぱりインターの北側のほうには行かないというようなふうにしていますので、できる限りその産業道路に近づけるということで、インター出来てしまったので、インターの周辺だけはどうしようもならなかったという経緯はあるんですけども、ですから市外、かなり土地利用に制約加えているという部分があって、ですから所謂商業地、工業地がですね、少ないように作られているというところがあるので、そうすると道路沿いばかりに集まるという傾向があるんですけども、その道路沿いの商店街の外側が今度、住宅街になっていくということになるので、やはりそうすると今度はどっちに伸びて

いくかという、桔梗側の方に伸びる可能性が高いなというのは、今感じてるところではあるんですけども。

そうすると、またあんまり今度どんどん違う外側へ外側へとまた伸びていく危険性はあるということなんですが、市の境目のところで何とか収まってくればいいかなと思いますけど、市の境越えていくんで、その部分、市とか町の境目を越えた場合がちょっと今問題なのかなと思いますね。

特に、北斗市と七飯町の境を越えて今住宅街広がっていく傾向があるので、その部分は逆に言うと函館市だけじゃどうしようもならないので、周りの所謂自治体とも共同してやらなきゃいけない部分が出てくるのか、はい。

○都市計画課 小畑課長

今のお話なんですけども、座長がおっしゃっていただいたように、もうこれ以上市街地の拡大というのはありません。函館市だけじゃなくて函館圏としての都市計画になっておりますので、都市計画上、拡大というか人口フレームと言われているものでありまして、昭和50年代から人口落ちてたんですけども、そのあと今までは世帯数というものが、例えば一世帯に7人8人とか住んでたのが、だんだんだんだん2人とかそういう世帯になってきたと。要は大家族化から個々の核家族化になってきたということで、世帯分離が発生し昔よりも住宅地が必要だということ、今までずっと宅地が開発されてきたという流れがあります。

ただ、それも世帯数ももう止まりまして、これ以上世帯も増えない。人口もどんどん落ちていくという流れになってきてまして、全国的な形で、市街地がこれ以上拡大は難しいだろうという傾向になった中で、北海道全体としてもこれ以上市街地の拡大がなかなか進まない。函館圏のほうもそういうフレームがもう作ることができない状態なので、これ以上今ある、用途地域の図があると思いますけど、ここ以外の部分は調整区域で既存の宅地があるところそのまま利用されているところもありますけど、基本的に市街化区域内での各市街化区域の拡大というのはこれ以上ないという形になります。以上でございます。

○奥平座長

はい。ありがとうございます。

ということでこれは周りのまちも含めて、市街地の拡大がもう止まっているというふうにお考えいただければと思います。なので既存宅地で今やっていくというのがこれからの流れということになるかなと思います。いかがでしょうか。はい、ありがとうございます。

では続きまして高澤委員お願いします。

○高澤委員

はい。拠点となる地域に必要な機能っていう部分で既にお話が上がっているように、病院であったり、買い物であったりっていうのはそうだよなと聞きつつ、学生視点でちょっと一つ話そうと思うんですけど、なんか生徒であったり学生であったり、そういう日常を充実させるための施設ってすごい必要だよなっていうのを考えていて、例えば学校の課題であったり宿題であったり、そういったものをまちの施設を使ってこなすっていうことも、学生にとってはすごい身近であり必要な機能であるなと思っているので、そういう施設があるだったり、ただ友達と思い出作りっていう部分もあるんですけど、なんだろうな、商業施設とかに行って一緒にご飯を食べるだったり、そういう友達との時間を過ごせる施設であったり、なんかそういう学生が日常を楽しく過ごせる、すごい抽象的になってしまうんですけど、そういう要素っていうのは必要なのかなって考えてました。以上です。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。

今の話で言うそうですね、ちなみに函館がですね、若者がいる場所がないってよく言われる原因がですね、実はあんまり大きい声では言えないんですけど、イオンがないことなんですよ。所謂イオンモールと言われるモールがないんですね。モールっていま言った高澤委員が言ったようなことを満足する施設なんですよ。函館の場合にはモールにならずに中途半端な大きさのが三つくらいあって、そこで皆満足しているの、別にそこに学生が行けるかって言ったら行けるわけがなくて、ただの買い物施設なんですよ。その部分がやっぱり他のまちと違うのかな。学生行くとこがないんですね確かに。生徒も行くとこがないので、逆に言うとそういうのができるとそこに集中する、殺到するみたいなことが起きるっていうのがちょっと函館の問題点ではありません。

函館の場合には受け皿が商業施設で取れなかった分をどこが取るんだということになると、逆に言うと既存の公共施設である例えばアリーナとか、そういった施設も開放していく必要があるのかなというふうに思います。アリーナもお金とって会議とかできるんですけど、アリーナに学生がいるかったら運動する学生しかいないんですよ。そうすると、そこで勉強するのもいいんじゃないみたいなふうにする、また実は湯川地区も学校多いので、そうすると周りからいっぱい集まってくるだろうということになるので、そうすると逆に本町地区に集中して集まるようになっているのが分散して、逆に混雑も緩和されるということになるのかなというところは感じてるところではありますね。

あと教育大の周りには全くないので。教育大の学生に言ってるのは図書館に行けと言ってますが、図書館に行けという話はしています。

そういったところが、やっぱり分散、なかなか施設が足りないという部分がありますし、公共施設をどう利用していくかっていうことでいうと、今までのような決まったその使い方っていうよりは、もう少し柔軟に使えるようにしていく必要が出てくるのかなと思います。そういったところも、学生の高澤さんの良い意見から見えるところかなと思います。ありがとうございます。

では最後になりましたが堀田委員お願いします。

○堀田委員

はい。かなりもうご意見が出つくされた状態なので、かなり苦しいところであるんですけども、今皆さんのご意見聞く中で結構医療が重要というお話が多かったなと感じております。

ただ正直私くらいの年代だと、まだ医療の重要性っていうところにそこまで実は目を向けれてないなっていうのを今感じました。なので、やっぱり年代によって重要視したい施設っていうと、年代によって重視した機能というところが少し変わってくるのではないかなというところが今皆さんのご意見を聞いてて感じました。

商業と一言に言っても、ご高齢の方の思い描く商業と、若者の思い描く商業ってきつとそこに差異が出てくるだろうなというところもありますし、医療というところもきつと子育て世代の方ですとか、ご高齢の方はきつと重要視するポイントですけど、なかなかまだ若い世代だとそこまで重要視しないみたいなのところがあるので、各施設の世代ごとの重要視するポイントをバランスよく地区の中に設けていくことでバランス良く多世代が住めるような地域になってくるんじゃないかなというふうに感じました。はい、以上です。

○奥平座長

ありがとうございます。そうすると西部地区が問題ですね。西部地区どうするかって話にやっぱりなってくるのかなと思います。

他の地区は大体もう揃ってて、何とかなるなっていうところあるんですが、西部地区皆さんど

う思います。

○三橋委員

住んでる方にこの間も聞いてたんだけど、またなんか焼き鳥屋さんが移転したとか。

○奥平座長

あ、鳥辰移転したんだ。

○三橋委員

噂になったみたいですけど。昔の銀座通りですか。江口眼科の前の通り。あそこら辺が結構今飲食店がすごい数が小さい店だけであるということは聞いてますんで、あのホテルも元 JAL のホテルも新しくリニューアルして、外資系かどっかのあれになって、今オープンしたんで、住んでる方に聞くと、あそこら辺がすごく明るくなったって言うんですよ。ただ歩いているのはやっぱり観光客だと。それと夜な夜な歩いているおじいちゃんおばあちゃんだと。の2パターンしかないよとは聞いてます。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。他にいかがですか。

あ、堀田さんお願いします。

○堀田委員

そうですね。勤務地として西部地区で働いてる身としては、やっぱり私も生まれたのが函館で大学も未来大に行ってたので函館はすごい馴染みがあるんですけど、正直今までは西部地区に全然行く機会がなかったです。

ただ今回、職場が西部地区になったので、車で西部地区に通うようになって、しかもちょっと西部地区のど真ん中というよりは外れたところにオフィスがあるので、そのエリアに行くようになってから思ったのは、思った以上にまだこれから頑張れるような可能性を秘めてるなっていうふうには思ってます。

最近すごく新しいお店ですとか、リノベーションされた一棟貸しのところがオープンしたりですとか、少しずつ少しずつ活気が戻ってきてるなっていうところは感じているので、これをより人が住むための機能としては、やっぱり医療っていうところはやっぱり一番欠けてるっていうところはすごく感じていますね。なので、人が来る流れは少し生まれてると思うので、次もうワンステップとして住むために必要な機能を増やしていく必要があるのかなと思ってます。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。それに対して言うんですけどね、交通の話が全く出なかったんですけど、実は交通で言うんですけどね、今実証実験を始めておりまして、所謂 AI デマンドタクシーというのを今やってまして、これ未来大の技術、みらいシェアを使いながらですね、やっていくという。1回 300 円という破格の安さで行けるという実証実験やってるんですけど、私もちょうとやる日にちちょっと行って、一応気合入れてきましたけど、これがですね、ちゃんと軌道に乗ってくればですね、お年寄りがですね、歩かずにタクシーを使いながらぐるぐる回れるようになるのかなというところが一つ良い点かなと思ったんですけど、よくよく考えてみたら今度地域指定したら、病院がないんですよ。先ほどから出ているこの病院の問題を解決するのがちょっと難しくなるのかなという。そうすると病院タクシーみたいなものもこれからオンデマンドで考えていく必要が出てくるのかなと思いますが、それは医師会とも協力しながらやっていくとかっていう方法も必要なのかなという感じはしてますね。交通機関の点でいうとそういうところも新しい動きが今出てきているということをお知らせしたいな。私も乗ってみたいなと思ってますけどね。乗れるそうです。空いていれば乗れるって言ってましたので、ぜひ乗ってみたい方はやって

みていただければなと思います。かなりネットからもスマホからも入力できるし、電話でも OK なんですよ。なんせタクシー会社が後ろについてますんで。そういう点で言うと配車もうまくできてるなというところがあるので、そういった部分がお年寄り対策ということでうまくいってるのかなと思いますね。

なかなか最初の最初でまずかなり良いご意見をたくさん頂戴できたのかなと思いますので、次に進ませていただきます。

まちなか居住、まちなかの賑わいについてということちょっとお話をしていきたいなと思います。皆さんまちなか居住に適したエリアってどこだと思いますか。これもフリーハンドでどんどんいきますか。あのですね、拠点地区ですね。所謂拠点地区でどこが住みやすそうかなみたいなところですね。はい。

○辻委員

なんかどういふふうにしたらいいかって言われれば、やっぱり土地がある程度の値段で、そこその区割りがされて、道路に近いってのはやっぱり一番のメリットだとは思いますが、そうやっていくとやっぱり十字街とか駅前ではなく、やっぱりその湯川から美原、この中でいうと中心市街地地区の北側の方からっていうのにはなってくると思います。

ただ移住、まあ移住というか、中に進めようっていった場合には、多分センターの真ん中のところに皆が集まる施設を作ってその近辺に住んでいくってような流れにしないと、なかなかこう誘導はできないのかなと思うので、いまでも多分駅前エリアとか西部地区の方では多分、補助金というか、それやってると思いますけどなかなか多分伸びてないのが現状だと思いますので、やっぱりその集まる場所の周りに住んでもらうって感覚のほうが実態には近いんじゃないかなと思います。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。他に皆さんいかがですか。どンドンフリーハンドでご意見を頂戴できればなと思います。

ちなみにですね。ちなみに言ってみれば、その拠点地域があるんですけど、拠点地域にどうやって集めるんだって話になるんですよ。そうすると、拠点地域に集めるということはここが魅力的で人が集まれる、集まりやすいということと言うと、交通の便がいいとかいろいろあると思うんですけど、条件もいっぱいあると思うんですけども、そうすると、その点でいうと条件全部揃ってるのかなという気はしますけれども、特に市電の沿線は非常に充実してると思いますけれども。

逆に言うと美原地区にどうやって人を集めるのかっていう話が出てきます。美原地区は今あそこはですね、昭和 40 年代に一気にまちが出来上がったところで、逆に言うと昭和 40 年代ですから、もう何年経ってるかという 50 年経ってるんですね、住んでる人たちがですね、もう超高齢化しているという状況に今なっていて、割と知られてないのが美原ってすごい高齢者が多いまちに今なっています。そうするとここをどうするのかということと言うと、先ほども何かお話が出ましたが、病院の関係で外に出た人が中に戻ってくるみたいな話になると、さらに今度は美原が十字街みたいになっていく可能性もあるということもあるんですよ。

そうするとここに人を集めるということになるとどうしたらいいのか、言ってみれば賑わいをつくるということにもなってくるのかなと思うんですけども、その場合にはどのようにしたらいいのかということ、ちょっと皆さんの忌憚のないご意見を頂戴したいなと、忌憚のないご意見ですよ。

だから、賑わい創出が必要、大事なかなと思うんですけど、そうすると順番がもしかすると

逆に、賑わいのために商業施設を作るんじゃなくて、まず人を住ませないと賑わってできないんじゃないのって話も出てくるんですね。逆に賑わうために外からいっぱい人を引っ張ってこなきゃならないっていうのもあるので、そうするとなかなか難しい問題が後ろに隠れているのかなって感じはしますが、どうぞ。

○三橋委員

今の話よくわかるんですが、結局皆さん判断するときって、そこに住むことのもちろん環境ありますよね。周辺のなんて言うんですか。まちの雰囲気とかありますけど、最初にやっぱり気になるのはコスト的なこと。そこに住みたいなと思っても実際美原地区もやっぱり昔からのあれで、土地の値段でいうとかなり高い方だと思います。函館でいうと。そうすると今の人方がわざわざお金をたくさん払ってそこに家を建てようという発想にならないと思います。

さっき言ったように桔梗だとか石川のほうに行ったほうが同じ土地でも大きさでも安く買えたり、もっと言うと越境して大川まで、七飯の大川まで行った方がもっと安いよねって話になっていくので、もし人を集めるという考え方、住んでもらうって考え方をするんだったら、それこそ役所で官舎を立てるじゃないですけど、公的な住宅を建てていく、そういう建て方をしない限りはなかなか今は難しいんじゃないかな。

特に今の若い方々はなかなか家を建ててって発想もないみたいだし。私こないだ聞いたのではもう今フラット40というのがあるんですね。40、50という話を今若い人に言ったら本当にフラットとしますよね。30で建てて80ですからね。そんな感じになっちゃうんだよね。

それはあれですけど本当もしやるとしたら手立てとしてはそういうちょっと公的に何か民有地じゃない市有地を利用して公営住宅なりを建てて住みやすいつてのが、まず来てもらうっていう方法をとるしかないのかなと私は思います

○奥平座長

はい、ありがとうございます。ええ、そうなんですよ。人を住ませるためにどういう方法があるかっていうと家を建てさせるのと、あとそれから逆に公的なアパートを作っちゃうっていう方法があるんですね。

で、どうもですね。大川団地が大変人気のようで、まちなかに大きな公営住宅を作ったら非常に人気になっているということを聞いてます。はい。

で、そうするとやっぱり今三橋委員がおっしゃってた通り、そういったものも作っていく必要が、公的機関として逆に公的住宅を作って増やしていくという方法も一つあるのかなと思うんですけども、じゃあ確かに大川だといいんですけども、これをですね、西部地区の西小中の跡地にも作るんですけど、こっちに人が入るのかっていう問題が実はありまして、あの周辺の市営住宅も空きがあるんですね。ただ1個今潰して統合するっていう話です。あそこですね。所謂愛宕中学校の跡の愛宕住宅、あれは潰すということなので、そうするとその人たちは全部あそこに入るのかっていうと、どうもそうでもないような話がありまして、そうすると結局いた人がいなくなるみたいなことがやっぱ起き得るのかなっていうところがあるので、じゃあ皆さん逆に言うにあそこに公営住宅を作ったら住むかっていう問題なんですよ。

西小中の跡地に作ったら住むかっていう話になると、実は私一つ気にしてることがありまして、上の段がお寺なんです。寺町通ですからね。全部お寺でお墓だらけっていう地域でもあるので、住むのかっていうところはやっぱりありますよね。

そこに公営住宅を作るぐらいだったら、もっと違うところに作った方がいいんじゃないのかなみたいな話がやっぱり出てきますよね。そうすると先ほど言ったようにNHKの跡地とか、そういうところはですね公営住宅にするとあそこは住みそうですよね。駅前ですからね。電車通日も

近いですし、そうするとね、ああいったところをもしかすると新しい住宅地として人を住まわせるような、そういう方向に作れるのかなという感じはしています。はい、どうぞ。

○仙石委員

あとはテーオーの跡地。

○奥平座長

テーオー跡地になるんですか。

○仙石委員

跡地になるのかわからないですけど、なんかそういったのもなんか10年後20年後考えていかないといけないのかなって今聞いてて思いました。なんか跡地になるのか、更地になるのかわかんないですけど、なんかその辺も。あそこに公営住宅建ったら入りますね。間違いなく入ってきますよね。シエスタの上大人気だし。あそこはマンションですけどね。でもあの辺に公営住宅できたら病院も近いし市電も近いし。

○奥平座長

そうですね。高齢者も若者も取り合いになりますよね。

○仙石委員

取り合いになるような気はしますよね。

○奥平座長

そういう施策ってもしかしたら必要なのかなっていうところですかね。中心市街地に公営住宅を建て、あんま建ってなかったのが、所謂大川に集中してた部分はあったんです。大川とか花園とか改良住宅ですよ。それを新しく作っていく。で、大川は新設で新しく大きいのができましたけど、そういう方向性ももしかしたら必要なのかなって感じはしますね。はい。

皆さんお住まいの地域のところではどうですか。人がいっぱい増えているようなものはありますか。住んでる人が。

実は湯川が人増えてるんですよ。湯川急にマンションがいっぱい増えまして。湯川にマンションなかったんですよ。ライオンズマンションの古いのがいっぱいあったんですけど、平成のバブルのときにできた古いマンションがいっぱいあったんですけど、新しいマンションも今建ち始めていて、そうすると聞いたらですね、湯川小学校の生徒数減が、生徒数が増えたという話も聞きましたので、そうすると、そういう点でいうと公営住宅もそうなんですけど、逆に言うとその分譲マンション、賃貸マンションみたいなのも増やしてもいいのかなという感じはしますよね。

そうすると住む人が、で、住む人が増えれば必ずそこに何かができる。大体商業施設ができるというところがあるので、それを狙っていくのが一ついいのかなという感じはしますね。

ちなみにですね、相対的にですね、拠点地域の中で湯川って地価安いんですよ。割と地価が安いところで、なぜかという川沿いの低湿地が多いので。結構あんまり高い土地はないなっていうところで、丘の上の方は高いんですけど下の方があんま高くないっていうのがあるので、そういったところに人を誘導していくという方法もあるのかなという感じがしますよね。

はい、ありがとうございます。

○仙石委員

その流れでいくと8ページ目。今これが進んでるんですね。今なんか原材料費の高騰でまだいつになるかわからないけれども、キラリスの向いにもう一つ棒二の跡地を壊して、商業施設と多分ホテルかマンションができるっていうふうに聞いていたので、なんかこういうところも考えてなんか議論しなきゃいけないのかなっていうのは思ったんでちょっとスライドを出してもらった

ということです。はい。

○奥平座長

いや、ここはもういつまでたっても決まらないということでも定評がある場所で、なんか噂ばっかり立つんですよね。今回もなんか噂が立ってますね。いよいよ決まったとファイブスターとか言っていましたけど本当かっていう。

○都市計画課 小畑課長

今とりあえずですね、組合が設立、認可に向けて手続きしてる場所ですので、今までは組合を作る準備組合だったんですけど、やっとそれが組合化になるということで、そうすると事業を進めていくのではないかとされているというところですよ。

○奥平座長

なるほど。そっから聞こえてきたお話ですね。そっから聞こえてきたお話で、どうも有名ホテルが来るんじゃないかみたいな話もチラチラ聞こえてくるようになりましたので。

元々有名ホテルが入る予定だったんですよ。それがなんか途中でなくなったとか、いろいろ出たり入ったりしてたもんですからようやくそういう方向になるのかな。

そうするとまたちょっとこのまち変わりますので、そういったところも、そうすると逆にですね、そういうところで人を住めるようになるんですよ。この後ろのマンションあるじゃないですか。これホテルとマンションなんですけど、ここに人がいっぱい住むようになると結構リッチな人たちが来るので、そうするとリッチ、所謂金持ち層を狙った店も出てくる。今までのその旅行者向けの居酒屋だらけがちょっと変わるのかなというところもありますよね。そういったところもちょうと考えていく必要がある。

だからなんとなくまちが盛り上がるためには、何か起爆剤みたいなのが必要なのかなというところと言うと、ちょっと駅前地区は注目の場所かなという感じはしております。はい。

なんかすごいまちになったら面白いですよ。あそこのあれですよ、渡辺時計店ところから全部ですから。あの一角全部再開発なので、しかも向かい側のアネックスもですよ。全部含めてなので。巨大な再開発地ということなんで、函館巨大な開発地残ってるんですけどなんか動かないっていうのがやっぱりもったいないなというところかなという感じはしております。

皆さんイベント関係で言うんです、どうですか。イベント関係もう少しなんとかした方がいいなっていうのはありますか。イベントも人を集めるのにはいいんですけど、なんか観光客が集まるためのイベントみたいのが今多いような気がするんですけど、住んでる人のためのイベントなんかありましたっけ。

○阿知波委員

それで言うと辻委員とかやられてた、名前何でしたっけ。

○辻委員

はこだてカルチャーナイトですね。

○阿知波委員

なんか初めて今回参加させていただいたんですけど、それこそ広範囲の会場を使われて、あと、あのバスですとかあれですよ、移動も考えていただいて、すごくいいイベントだなと思って、その人を集めるのも含めてすごいなと。そういうのがもっとたくさんあったら人が活性化する、いいのに参加させてもらったなと思ってます。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。カルチャーナイトも今すごい充実してね、乗り物も楽になって、昔は自分たちで行かなきゃならなかったんで結構大変だったんですけど、今かなり簡単に行

けるようになったということですので、やっぱり新しい動きかなというところありますよね。

他にですね、私イベントとしてはですね、昔々にあったイベントを今思い出したんですけど、函館はですね、昭和50年代ぐらいまでかな、各商店街で夜市やってたんですね。各商店街で夜市をやっている、商店街に所謂出店が並ぶっていうのが、各商店街でなんか時期ずらしながらやってたという。夏休みになるとですね、なぜか夜市やりますっていう紙が配られるっていう小学生に、ていうのがありました。それがいつの間にかなくなっていったという経緯があって、ちょっと寂しいなというのがあってですね。私も当時は花園町に住んでたんですけど、花園十字街でもやりましたんで、そうすると皆で遊びに行ってますね、ポン菓子買ってとかですね。で、あの言ってみれば小学校の友達が皆集まってくるわけじゃないですか。だからそこがまた楽しかったなっていう記憶があって。

今夜市の話をしたんですけど、やっぱりナイトエコノミーという部分で言うと函館弱いんですよ。函館は夜の経済が回らない。お店も早く閉まっちゃう。で、遊ぶところがないみたいな話が、これ学生だけじゃなくてですね、大人も結構そういうことでいろいろあるんです。そうなるってそういうものをですね、やると面白いのかなと。夜市は行くと、やるとですね、おそらく子供達がわんと出てくるだけじゃなくてくっついて親出てきますので、保護者も参加するようになるとそこで一杯ビール飲んでったらちょっと帰り焼き鳥食って帰るかみたいな。で、別なプラスの経済が出てくる可能性があるなというところもあるので。

台湾に私この間行ってきましたけれども、台湾はそれこそ今言った通り、各まちに夜市がいっぱいあるんですよ。もう無数にあるので、そういう部分っていうのはやっぱりナイトライフエコノミーという点でいうと面白いのかなと思いますし、今暑いじゃないですか、夏。暑くなってきましたよね。なので夏暑いのを避けるために夕涼みがてら行くみたいなのができれば面白いのかな。前は寒かったですけど、今はもう温かいので動きやすいのかなってのもありますし。

あともう一つは横丁。大門横丁を別な地区に全部作ったらどうみたいな、ありません。今の拠点地区に全部横丁があったら、これ言ってみれば夜市じゃなくて、横丁市にして横丁周ればいいんじゃないですか。

○仙石委員

それは屋台村機能っていうことですか。チャレンジショップ機能ってことですか。

○奥平座長

そうです。つけた状態ですね。TMOでまたやれば面白いんじゃないのかなっていう感じはしていますよね。

○仙石委員

確かに湯川は9時で終わりですよ、今ね。本当につば八も早く閉まるし。

○奥平座長

で、やっぱそうなるって、コロナ前はパチンコ屋の隣の空き地の駐車場のところでやってたんですよ。夜市みたいのやってたんですけど。その大きいのができれば、あそこに人を集められるんじゃないのかなっていう感じはしてて、で、観光ね、やっぱり温泉地ですから、温泉地なのに何もなくて皆まちに出ていくっていうところもあるので、そういうところもやると面白いのかな。イベント関係でやれるようなところをちょっとやってみたら面白いかな。

だから逆にいうと横丁をいっぱい作るみたいなのも面白いのかな。屋台村もいっぱい作るみたいなのは、ちょっとイベントとしては函館は合ってるから。観光地ですしね。そうすると観光で作ったはずなんだけど、なんか地元の人もしゃあみたいなふうにするといいのかなって感じはしますね。

そうすると台湾に匹敵する夜市のまちみたいにして、で、ちょっと宣伝したぐらいにしてですね、いっぱい人を呼び込むみたいなことも可能かなと思いますので、そういったちょっとそういうところも皆さんにお伺いしたいなと思うところでもあります。

他にどうですか。起爆剤。あの難しく考えないでください。簡単に考えましょう。どうやったら人集まるか。まちなかの賑わい。

○辻委員

そういうイメージであれば、函館であれば七夕って多分函館だけ。こういうハロウィンに近いような形でやれてると思うので、そういうのを地元で盛り上げてもう少し人を動かすような形でやっていけば、私先ほど言ったそのカルチャーナイトっていうのもそれでちょうど20周年で、今年20年目という形で、1万3116人ってのは延べ人数、実質は多分4000人ぐらいの人が夜動いてくるということで、やっぱりいつもシーポートプラザの前で最終的に本部で景品というか、そういうものを渡してたんですけども、そこになかなかやっぱり辿り着けないとかそういう方もいらっしゃるし、終わったあとにその食べ物がないから結構そのまま帰ってご飯食べるんだよねっていうこともあって、今年に限ってはこども縁日っていう、緑の島を借り切ってブースを出して、その向かい側に一応同時開催という形でキッチンカーさんと呼んで、そこで少し飲食をして帰れるっていうのをやったら割とやっぱり盛況だったので。

そういうもののなんか観光客を呼ぶために何かやるっていうよりは、地元の人がやってるその文化とかを観光客の人に見てもらってというのが本来の観光の意味なのかなとも思うので、よく最近オーバーツーリズムとか言ってすごく問題になってるところあると思うんですけど、なんかこの地元のところを優先してなんか見てもらえるようなイベントがあるといいのかなと思いますね。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。新しい視点が今出てまいりましたね。他にどうですか。

○仙石委員

すいません。この駅前でのやってた、この駅前・大門めぐり、これ今年やってたやつですよ

ね。

○都市計画課 上田主査

そうです。オープンカフェ等社会実験は一昨年からやっております。

○仙石委員

こういう取り組みが増えるといいのかなっていう話ですよ。地元で楽しんでもらって。

○奥平座長

歩道にテーブル出して、歩道で飲めるようにしましょうとオープンカフェっていうのが一応売りだったはずですね。

○都市計画課 上田主査

このチラシにあるように6月28日から10月20日までの期間で道路の占用許可を取って、そこに各店舗がテラス席などを作って、外で賑わいを創出するというのが目的の一つです。

○仙石委員

それで市民の人も行くし観光客の人も行くっていうのを、今社会実験の状態ですけどこれを恒常化されるような動きがあると、店にとってもあんまり負担もなく売り上げアップにも繋がるし、まちの賑わいの創出にもなるのかなっていう話の流れから聞いてて思いました。

これ今本町地区の方でもね、まちなかフェスティバルとかやっているの、そういうのも地元の人たちも行けるし観光客の人も行けるっていうのを、なるべくお店の負担にならないように

プラスになるような施策っていうのをこう役所なり三セクなり、主導でやっていくといいのかなっていうふうに。既存の資源を使ってっていう意味ですね。

○奥平座長

そこに市が補助金を出すわけだ。

○仙石委員

そうです。補助金を出すと。

○奥平座長

そうするとうまくいくという感じでしょうかね。はい、ありがとうございます。

他にどうでしょうかね皆さん。はい、どうぞ。

○辻委員

先ほどの緑の島の手前のあのビルというかホテル事業ですね。やってるところの会社さんと話す機会があって、歩いて回れるところの、なんて言うんですかね、起爆剤になるっていうようなコンセプトで作るっていう話は聞いてるんですね。

○奥平座長

そうなんですね。

○辻委員

元々あそこの会社が瀬戸田っていう広島の方の。

○奥平座長

島ですね。

○辻委員

はい、そうです。それで移住をさせてそこになんて言うんですかね。それこそ昔でいう商店街のような、そういうところもいくつか作っていったりやるっていうようなモデルだったもんですから。その辺り先ほどの西小中跡地も通常の道営住宅がぽんと建っても、僕らも住宅屋さんやっていると、安くて新しく綺麗な道営住宅できると困るんですよ。

○奥平座長

わかります、民業圧迫ですよ。

○辻委員

いや、困るというか、それで十分だと思うんですよ、変な話。そうなったときにやっぱり何か少しコンセプトを持ってたような、例えば青森とかで今カクヒロアリーナって隈研吾さんの作った、コンセプトで入ったようなところもあると、やっぱりその民と官がくっついてる部分があるんですよ。その一部分はもう貸し出しをしてやってるようなところとか。

そういった中ではそれこそキラリスみたいなお子さんが遊べるところで割と大きく中も見てきましたけど、やってたりとか、そこがさらに防災拠点にもなってるっていうような、やっぱそういう部分もあるので、そういうような何か一つの拠点になれるようなところがポンとそこにあって、さらにポンとただの箱物ではないようなコンセプトがあれば、移住してくる人も呼べるし、元々そこに住める人も歩いてその辺りをいける。移住してくる人の方が多分もう車ないと動けないと思ってないと思うので、そのあたりは何かうまくそのまちを作っていければいいかなと思います。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。ホテルの情報まで入ってまいりました。なんか面白いものができそうだねっていう話がちょっと見えますけれども、そういったものってやっぱり作ると、そこが呼び水になって人が集まり始めるみたいなのところがやっぱあるので、そうするとそれが各拠点

にあればいいのかなって感じになってきますよね。

だからそれをどう誘致するかっていうと、やっぱり補助金ですか。補助金だけじゃないですけどね。補助金の他にいろいろ、逆にいうと市民も参加する、市民もまちづくりに参加するっていう意識をどうやって高めていくのかっていうことをですね、やはり大泉市長にお願いをするというところになりますかね。はい。

最後です。まちなかの防災対策についてということなんですがイメージ湧きますか。

○仙石委員

社共から。

○奥平座長

どうぞ。もうここはもうざっくりばらんにどうですかっていう問題。

○阿知波委員

今うちの団体がもしそういう災害が起きたときに、あの市の地域防災計画の中に入ってるんですけども、外から来るボランティアさんの受け入れをするセンターを設置して、なんてしょう。マッチングをするっていう役割をさせていただくってような作りになってるんですけども、まだそういうことになってるんですが、そういうボランティアさんの養成とか仕組み作りはまだ全然まだ足りてないもんですから、今日もちょっとそういう話し合いを市の方ともしてて、今後もそういうふうに対応できるようなことをやっていこうということと、あとは仙石委員さんいらっしゃるんですけども、のほうもNPO中間組織ということで一緒にこれから協力させていただければなというのは今話をしていきたいなと思ってるところです。

○仙石委員

今、国がそういう防災基本計画の中に行政と地域の社協と、あとは地元のNPOとか、中間支援の三者連携って今言ってるんですけど、それを充実させて計画を作っていこうねっていうか、そこまで今、ちょっと今動き始めてるっていうところで、まだ皆さん作ったことがないので手探りの状況で、皆いろんなところから情報を仕入れて勉強しているっていうところなんですけど、やはり昨日も僕札幌で防災のフォーラム行ってきたんですけども、実際に今年能登の方でね、地震起きたりとかもして、で、昨日シミュレーションとかやってみたんですよ。被災地3日目、7日目、14日目どうなるみたいな話やってみたら、本当に実際に行ったことがある人が的確なんですよね。なので本当に被災者支援に行った方を招いて勉強会をまずやるところからかなってほうに、非常に強く感じています。

なんかその土地によって足りないものだったりとか、絶対足りなくなるもの、例えば食料もそうですね、トイレもそうですね、なんかいろいろあるんですよね。起きた場所によっても違うし、なんかその辺のノウハウって実際に体験された方から聞いてみるっていうのがいいかなって。

本当にもう立ち行かなくなったらまずボランティアすら受け入れられないんですよね。あと寄付するよって言ってくれても数が足りてないと逆にもらえないとか、なんかそういうのって聞かないとわからないし、実際に立ち会った方たちの知識とか知見っていうのを大事にしてこれから作っていきたいっていうふうには、これからね、やはり一緒にやってみましょうねっていう話です。

○奥平座長

ってことは端緒に就いたところですね。今始まったばかりなんですよ。

○仙石委員

でもやっぱり今ね、日本海溝の話があるのと、あと最後のページに出てたんですけど、この逃

げ地図ワークショップっていうのを1月にやりました。あそこにちっちゃく僕写ってるんですけど、参加しまして。実際にこれ逃げ地図やって、ここで津波起きますって言って垂直移動と平行移動していったら、垂直逃げはビルとか大規模な施設があると逃げられる。でもここって発災して、ここに立ってたら助からないとかっていうのがワークショップやるとわかるんですよ。なんかそれも都市機能にとって非常に重要なポイントで、避難ビルになってないところも、なんだろうそれこそ北浜町会さんとかすごい進んで、自主的に避難ビルになってないところをお願いに行って、有事の際は協力してくださいみたいな、住民主導でやってたりもするので、なんかその辺の知見っていうのを本当に高めていく取り組みっていうのを全市的にやっていかないと、本当にね、函館結構危ないですよ。いつ何が起こっても怖いなって。

正直まちづくりセンターにいてもやれることは、上に逃げるしかないですよ。本当に上に、本当に坂の上に逃げるしかないっていうところで、なんかそういうのを日々考えてるから上に逃げるっていうの知ってますけど、ちっちゃい子とかわかんないですよ。津波きたらどうしたらいいかなってわからないので、なんかその辺教育委員会も巻き込んで子供たちに伝えるとかっていうことも、今後必要になっていくっていうところと、あと我々みたいな機関もしっかりね、計画立てていきたいなっていうふうに思っているところです。すみません、なんか長々と喋ってしまっ。ありがとうございます。

○奥平座長

函館の標高が低いんだってことをちゃんと認識した方がいいですよ皆で。じゃないと本当に低いんで、20mクラス来ちゃうと、所謂今回の東日本大震災クラスだと、市街地の大半がやられちゃうっていう現実がわかってないかもしれないっていうのは怖いですよ。

そうすると、もう一つ大事なことは避難ビルがない。近くにビルがない。近くに山もない。どこにも逃げられないみたいな右往左往するだけっていうようなことが起き得るまちでもあるので、そこがやっぱ怖いかなと思いますね。だからそこをちゃんと啓発していかないとやはりまずいかなと思いますし、函館の地形で言うのですね、実は大森浜側の方が高いんです。で、港側の方がすごく低いんですね。ということは繁華街の方が低いんですよ。繁華街の方が低くて、浜の方が高いので4,5m, 10mまでいかない、10mは大丈夫かな。10m前後だと逆に大森浜側逃げた方が安全だっていう話もあるぐらいで、だからそういう話もですね、やっぱり等高線から読めると思うので、そういった話を少しずつ出していっても面白いのかなと思いますね。

○仙石委員

それこそ函館公園の方が高いから、そっちに家買う人もいるんですよ。うん。一方でだからそういう利点はあるんですよ。

○奥平座長

山の手っていうやつですね。

○仙石委員

そっちに家買ったっていう人も聞くので。ひっそりしているようで、実はそういうメリットもあるんですよ。

○奥平座長

だから本当に高いところを探すっていうようなことが起き得るのがちょうど函館山とその東山の間、東山までいかないんですけど洪積台地があるので、洪積台地所謂丘の上、だから山の手とかあの辺と、あの辺より下になるところで急に低くなるので、本通あたりはすごい低いんですね。なのでそうするとあの辺も、誰も想定しないと思うんですけど、あの辺やられちゃう可能性があるっていうことはやっぱり理解しておく必要があるのかなと思いますね。

特に川が近くにある場所ってというのはどうしても低くなるので、川を伝って津波入ってくるということもちゃんと理解をしてもらう必要があるし、あと避難ビルがどこにあるのかってことがよくわからないみたいなどころあるので、これは町会さんの協力も必要なのかなと私は思ってますね。町会さんの方でそれをちゃんと会員の方々に徹底するみたいなのが必要かなという感じはしますね。皆さんご自宅の近くの避難ビルご存知ですか。

○仙石委員

北ガス。

○奥平座長

ああ、北ガス。はい。どうですか皆さん。わからない。

○高澤委員

家帰ったらすぐ。

○奥平座長

把握した方がいいです。把握した方がいいのと、自分ところの標高も一応調べておいたほうがいいと思うんですね。標高がですね大体ね、15mあるとまず大丈夫だと言われてます。10mだとちょっと危ないってさっき言いましたけど、大森浜もちょっと危ないところなんですけれども、そう考えると避難ビルはちょっと調べた方がいいかなと。特に低そうな場所にお仕事地があるとか、低そうなところに家がある場合ってのはやっぱり調べたほうがいいのかなという感じはしますね。私はですね、隣にライオンズマンションのでっかいがあるのでそこに入れてもらおうかなと思ってます。なんていうのはあるんですよ。

近くにそういう大きい建物があればもうすぐ逃げられるようにっていうのは想定すべきかなと思いますし、あとは皆さん何か避難訓練とかやっていますか。ところが会社も本当は避難訓練やるべきだって今話が出てますよね。どうぞ。

○仙石委員

公共施設は年2回必ずやることになっているので、この前もちょうどやったんですけど、意外とやること多いんですよ。火災もそうですけどね。通報するのと、避難誘導するのとか、放送したりとか、結構役割多いのでやないと。あとは火災だったら初期消火必ずしなきゃいけないとかね。できないから避難させるとかそういうこともあるんです。ちょっと災害と関係ないんですけども、意外とやること多いよっていうのは皆承知しておいたほうがいいかなって思いますね。

○奥平座長

わかりますね。はい。

他にどうですか。皆さん、なんかこれはどうかなみたいな。これはやったほうがいいなみたいな、なんかありませんか。

○辻委員

僕らは家建てるって考えると、やっぱりその標高ってのはある程度、と、あとはまあ形ですよ

ね。
やっぱり先ほど言った湯川から五稜郭公園ぐらいまでのエリアってのは結構地盤も悪いですし、あとは標高も低いので、意外となんか産業道路があるから大丈夫って皆さん思われてるんですけど、結構ハザードマップでいくと深堀のアーナのあたりからどどんどどんどどん本通までは低いですよ。なのでその中心市街地って言われてるその本町のあたりから上、多分あの辺りも多分10から20の間ぐらいのところが多いと思うので、そこら辺にもし何かするんであればやっぱり武蔵小杉とかのタワーマンションとかもあれば、やっぱり1階に何かとかじゃなくて2階に

何かするとか、そういうふうなものは作っていかざるを得ないんだろうなとは思いますが。

○仙石委員

ここにあると絶望的に倒壊する。逃げ道を作っても古いビルとか倒れるんですよ。でもう逃げ道が寸断されてしまって計画通りいかないというのが災害ですよ。

その辺も自分の家の周りに倒れそうな建物とかを、なんかね今日も朝ドラ、昨日か、朝ドラでやりましたけど。阪神淡路大震災の話今してますけど、なんかそういう建物もあらかじめ頭にインプットしておくとか有事の際は逃げやすいかなっていうのはありますよね。

なんかこういうことも市民の人は知らないですよ。なんかそこは行政主導で啓発していく必要があるのかなって思います。

だから陸橋とか倒れたらどうするんですかね。

○奥平座長

いや、どうしようもないですよ。

○仙石委員

本当にね。

○奥平座長

陸橋落ちると車が通れなくなる。

○仙石委員

通れなくなる。もう目も当てられないです。

○奥平座長

そうなんです。だから地盤の良いところにちゃんと作ってればいいんですけど、砂地の上に作ったら砂上の楼閣ですからね。ぱったりいきますんで。そういうところもないとは言えないっていうのがちょっと怖い。

でね実はもう一つ危ないと言われてるのが横断歩道なんです。横断歩道じゃない、歩道橋。歩道橋のあるところは歩道橋が倒れる可能性があるということになると、歩道橋の場所っていうのをちょっと確認をしておいて、ここ危ないから避けるようにどう逃げたらいいかみたいなことも必要になってくるのかなと思いますね。

やっぱり函館は大きな災害がないっていうのがやっぱり皆、うん、来ねえよとかって思っちゃう原因かなと思うんですね。

○仙石委員

津波来てますからね、13年前にね。

○奥平座長

はい。その前も来てるんです。津波来てて、チリ地震津波のときには住吉漁港が完全に冠水したところか、その住吉漁港から谷地頭のほうに水が抜けたっていうことがありましたので、そういう点でいうと、別に安全ではないということと、あともう一つは倒れるはずがないと思っていた建物が十勝沖地震、昭和43年のときにはなんと函館大学が潰れたということが起きてますので。

○仙石委員

1階になったの、2階がね。

○奥平座長

そうそう、べっちゃりいった。そういうこともあり得るんで。そういうところはやっぱり想定外が起きることが災害だというふうに考えたなんか啓発活動がやっぱり必要なのかなと思いますね。そういう話ってやっぱりいろんなところでしていかないと忘れちゃうみたいなのがありますよ

ね。

函館は昔大雨降るとすぐに洪水になるまちだったんですけど、いつの間にかですね、洪水来なくなっただけでないよとか思ってたら2年前でしたっけ。大雨降って湯の川が氾濫して。

○仙石委員

2年前に湯の川が氾濫しましたね。旅館が一つ水没して、大変なことになって、あとなんだろう。近くのマンションも水没した。1階まで床浸かりましたね。

○奥平座長

1階まで水浸かったって、ええ。ありましたから。低いところは低いということをやっぱり忘れてると、今度は最近ゲリラ豪雨が増えてるってこともあったら、やっぱり何が起きるかわかんないかなっていう。

○仙石委員

そうですね。川の近くは川は戻ろうとするんですよ。特に湯の川は矯正してるのでそっちに水が戻ろうとするから、そういうのって定期的に発信していかないと皆忘れちゃうよね。

○奥平座長

湯の川ってすごくてですね、湯の川の何がすごいかっていうと、あそこを想定すると、他の地域は安全だなと思うんですけど、松倉川の河口にですね、まず鮫川が、一番近くの鮫川が合流してるんですよ。さらにちょっと北に行くんですけど、今度湯の川が合流してるんですよ。だから3河川合流ってなかなかないですね。

○仙石委員

溜まるんですよ。あそこ郵便局、湯川郵便局のところも低いんですよ。だからあそこも水没すると思うんですよ。

○奥平座長

だから東郵便局も潰れちゃう。水没しちゃうっていうそういうところですよ。そういうのもやっぱり想定しながらやっていく必要があるのかなって感じはしますね。

あとこちらのほうで言うところのほうは大森浜側のほうが高いです。だから市役所側が高く向こうに行くにしたがって下がっていくんですよ。どんどん下がっていくので、やっぱり先ほど言った通りもし逃げるなら市役所に逃げるとというのが一番安全なのかなって感じはしますね。この辺は。という感じはします。

あとうちの大学の近くはですね、元亀田川が流れてた経緯があるので低いんですよ。低いんですよ。神社とうちの大学だけ高く、あと低いんですよ。そっからドバツと低いんですよ。ずっと低いんですよ。そういう地形もやっぱりあるので、見えなくなってる部分あるので、そういうところもどっかで明らかにしていく必要があるのかなと思いますね。

なんていう話をしてたんですけども、だんだんネタが切れてきました。これぐらい話すともうあとはないかなっていう部分まできてる。どうですか。最後にこれだけは言いたいみたいなありませんか。どうぞ、順番にどうぞ。

○辻委員

ちなみに何か函館市で防災拠点になるようなそういう公共施設っていうのはどこかにあるんですか。例えばなんかその備蓄がどっかにあるよとかそういうものです。

○奥平座長

これは市役所に聞いてみた方がいいかもしれませんね。事務局。

○都市計画課 小畑課長

一応防災拠点は市役所になります。災害指令は消防本部になりますので、一応この2拠点が災

害時の拠点になります。

○辻委員

このぐらいの日数何人分とかなにかそういうものとかって。

○都市計画課 小畑課長

すいません、私の方ではちょっと把握申し訳ないけどしてないですけども、うちの災害対策課のほうでその辺の準備は防災計画として立てておりますので。

○奥平座長

でも一つ、ちょっとなんかあれって思うのは、防災拠点、市の防災拠点どっちも低いじゃないすか。標高。

○都市計画課 小畑課長

そうですね。まあでも階数がありますので、津波想定とか浸水想定ですね、よりも上の方で機能できるように一応対策はとっています。

○奥平座長

うん。でもその建物が崩れたりして通れなくなると、他の地域に全く物資が回らなくなる危険性はないですかね。

○都市計画課 小畑課長

物資のほうはそうですね。

○奥平座長

拠点はわかるんですけど、拠点から物が出てこないみたいな、という話になるかならないのかちょっと不安ですね。

○都市計画課 小畑課長

災害の避難路、幹線路、そういう災害物資も考えている通路、幹線道路の部分は防災担当の方で指定してますので、その辺は一応想定はしております。

○奥平座長

おそらくね、亀田支所を使えばいいんですよ。亀田支所のほうが拠点としてはいいのかな。高いから。ここだとちょっと一抹の。こないだあのね、あの停電になったじゃないですか。もう電力施設上げたけど、津波来て、津波来たらやっぱり駄目だということで、今嵩上げてますよね。そうするとちょっと一抹の不安がある拠点かなという感じがするので。大きいですけどね。他にどうですか、ああそうだ。はい。順番に。

○三橋委員

今ちょっとお話を聞いてて思うのは、ちょっと今まで話した皆さんまちなかに集まろう、拠点を作りましょうって言うけど、ちょっと私先ほど言いましたけど、リスクヘッジを考えてやっぱり分散した方がいいんじゃないかなってところ。

先ほど言ったように、さっき言ったように市役所だけじゃなくて亀田支所に拠点を置くかどうか、そういうことも考えながらやらないと、なんかあったときに函館の地形上どうしても三方海に囲まれた状態ですから。真ん中が特に砂で囲まれたというような集まったようなところですから、そこはなくなるっていうのはもう想定できる話だと思うんで、そうしたらやっぱり函館山、もしくは美原方面、そっちのほうに拠点をもう一つもう二つ持っておくのが適切ではないかなと思いましたね。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。ほかに皆さんいかがですか。どうぞ。

○仙石委員

分散させるって話になると西小中の跡地も分散の場所になり得るかなって。だから函病と高橋病院移っちゃったけど、そういう機能が本来はあれば、分散という考え方であると、あそこに病院機能があるといいのかなっていうふうに思う。で、高い建物をあそこに作れば一石二鳥かなっていうところが今思いました。

○奥平座長

はい。そうすると西部地区は大変ですね。

○仙石委員

大変ですね。やることいっぱいあるんで。

○奥平座長

西部地区に拠点機能を強化するってなると、これかなり、災害まで入ってくるとかなり大変なことになるのかなって感じはしますね。で、あの本当に西部地区が孤立する可能性もやっぱり否定できないわけじゃないですか。そうするとやっぱりそこまで想定した上で、どう逆にその機能を一部分散することも考えていく必要があるのかなというのはちょっといま話をしているうちに思いましたけども。

それではいかがですか、他に。これだけは話しておこう。ちょうどいまいい時間なってきたんですけど。もういいですか。よろしいですか。はい。

それではたくさんご意見いただきました。たくさん意見いただいているうちにですね、逆に違うところに気づいて、集中より分散だみたいなの、あれなんか話が逆にいったぞと。実は本当にこれは災害だけは逆だなと思いますね。防災に関しては駄目ですね。内側に移すよりもそれこそ産業道路の外側のほうが安全だっていう話になりかねないんで、そこら辺はやっぱり、ね、状況に応じての使い分けをする必要があるのかなということが今日の意見、意見いただいた中で、今回の中でわかったのかなと思います。

○仙石委員

あとは防災のことも加味するんであれば逃げる高さの建物をしっかり作って行って、津波避難ビルとかに市がちゃんとなり得る耐震補強するとかそういうところなのかなっていうふうにいま思いましたね。全てを解決するんであればね。

○奥平座長

私も思いました。この逆に中心市街地の危ないところが結構あるぞっていう話になると、やっぱりその部分も想定をやっぱりしながらまちづくりしていく必要があるのかなというところはありますよね。

逆に今日議論して、あそっか、防災で考えると危ないなって話が出てきますんで、そうするとやっぱり一部分散みたいなのところも必要になってくるのかなというのが今日の、懇話会で一番わかったことかなと感じがしないでもないですが。まさか防災くると全く逆になるみたいな話になるので、やっぱりその部分はやっぱりちゃんとこの中で議論をして良かったかなというところでもあります。はい。ありがとうございました。

ではもう一言言いたいことありますか大丈夫ですか。いいですか。はい。以上でテーマに係る議論は終わりにしたいと思います。

続きまして次第の4その他でございますが、函館市都市計画マスタープラン地区ワークショップについてです。事務局より説明資料の説明をお願いします。

○都市計画課 関主査

はい。それでは、委員の皆様のお手元にお配りしております、函館市都市計画マスタープラン地区ワークショップ開催記録について説明させていただきます。

本年8月から10月にかけて、函館市の各地区に住む市民の皆様が感じている問題点や、まちづくりのアイデアなどを把握することを目的に地区別のワークショップを開催いたしました。

ワークショップはKJ法という付箋に自分の意見を書き、他の方の意見を聞きながらグループの結論をまとめ上げるという手法で行い、地区の良いところ悪いところ、それらを良くする、またはそれを改善する取り組みを整理し地区別に発表していただきました。

地区は、現行の都市計画マスタープランにおける地区別方針の区分である西部、中央部、東中部、北東部、北部、東部の6地区を対象に行いまして、この資料はそれぞれの地区から出ました意見をそのまま掲載したものになります。

開催は基本的に各地区1回ですが、東部については通常のワークショップの他、南茅部高校の生徒の皆さんを対象に授業の一環として開催させていただきました。

今回の懇話会では開催のご報告までですが、次回第6回の本市の魅力と資源を生かしたまちづくりの方向性函館らしさのあるまちづくりの中でこの地区別ワークショップの結果を踏まえ、皆様に地区別のまちづくりについてご議論いただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

以上、地区ワークショップ開催記録についての説明を終わります。

○奥平座長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につきましてなにかご質問などございませんでしょうか。これは次回も持ってきた方がよろしい資料ですかね。

○都市計画課 関主査

そうですね。お願いいたします。

○仙石委員

これデータでもらえると見ながらできるので。あとでお送りいただけると助かります。

○奥平座長

はい。データ送付よろしくをお願いいたします。

質問等よろしいでしょうか。今すぐ見てもどうしようもならないと思いますので、ご自宅でお持ち帰りのうえご覧いただいて、次回に備えていただければと思います。

最後に皆様から何かございますでしょうか。

○仙石委員

議事録がドキュメントで回ってきて感動しました。以上です。非常に見やすかったです。提案モードでお戻しました。はい、素晴らしい。ありがとうございます。

○奥平座長

ありがたいです。ええ。他に何かございますか。よろしいでしょうか。

では、事務局から何かございますでしょうか。

○都市計画課 上田主査

はい。本日の会議の内容につきましては市の方でまとめさせていただきますして、次回第6回市民懇話会の開催案内と併せて皆様にお送りしたいと考えております。

また、会議の冒頭で確認していただきました、第4回市民懇話会の会議録と事務局で撮影いたしました写真を近日中に市のホームページに公開したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

次回第6回の市民懇話会は、11月26日火曜日午後6時30分より、場所は本日と同じ市役所本庁舎8階第2会議室。テーマは本市の魅力と資源を生かしたまちづくりの方向性を予定しております。

事務局からは以上でございます

○奥平座長

はい、ありがとうございました。

それでは以上をもちまして第5回市民懇話会を終了したいと思います。今日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。これにて終了いたします。

お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上